

今後のカムイワッカ湯の滝の利用のあり方について

斜里町

- 資料4-1のとおり、下部区域において、これまで指摘されていなかった落石が認知され予見されるようになった。土地を借り受け、供用する斜里町としては、「観光地」としての「自由利用」は、認めがたい状況となってしまった。行政的な法判断に基づくと、現状のまま何も対応しないことはあり得ない状況と考えている。
- 一方で、先の報告のとおり、この2年間の上部区域で試行事業によって、カムイワッカ湯の滝の潜在的な魅力や満足度の高さも再認識したところでもある。この試行事業の成果も踏まえるならば、下部区域を単純に閉鎖するのではなく、制度的に上部区域と統合し、試行事業の対象区域に組み入れることで、一定の利用は維持できるのではないかと考えている。
- 現在の試行事業の枠組みの基本事項は、下記の通り及び参考資料5の通り。
 - 試行A（ガイド利用）
 - 一定の要件を満たした試行事業引率者による引率。
 - 引率者1名あたり6名まで引率可能。
 - 全員ヘルメット装着、引率者は無線機携帯。
 - 現地補助員1名以上配置。
 - 試行B（個人利用）
 - 1日150名、1時間あたり30名まで。
 - レクチャー受講、重要事項説明書への同意、ヘルメット着用の義務化。
 - 現地補助員3名以上配置。
- 下部区域が約4万人の自由利用を受け入れていたことを踏まえると、試行事業として円滑に運用したとしても、利用者の大幅な減少は避けられない。しかし、安全性は高まり、かつ、利用者の満足度が大幅に向上する可能性が高い。
- 逆に、滞留時間が延びることによる現地の混乱、繁忙期のアクセスコントロール、オペレーションが複雑になることによる人員の確保、特別な管理運営体制の構築、周知不足となった場合の現地での混乱なども予想されるため、関係機関・団体の協力の下、万全を期することが必須となる。
- 以上を踏まえ、関係機関・団体、出席者各位のご意見を伺いたい。